

平成 13 年 10 月 29 日

各 位

会 社 名 日立電線株式会社  
代 表 者 取締役社長 原 精二  
(コード番号 5812 東証・大証 1 部)  
問 合 せ 先 人事総務本部総務部長  
鈴村 慎一郎  
(TEL. 03-5252-3261)  
当社の親会社 株式会社日立製作所  
代 表 者 取締役社長 庄山 悦彦

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 14 年 3 月期 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日) の連結ならびに単独業績の予想について、平成 13 年 4 月 26 日の決算発表時に公表いたしました業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

#### 1. 連結業績予想の修正 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)

	単位	売上高	経常利益	当期利益
前回発表予想(A)	百万円	430,000	24,500	13,000
今回修正予想(B)	百万円	350,000	2,000	1,000
増減額(B) - (A)	百万円	80,000	22,500	12,000
増 減 率	%	19	92	92
(ご参考) 前期実績 平成 13 年 3 月期	百万円	410,394	25,604	8,443

#### 2. 単独業績予想の修正 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)

	単位	売上高	経常利益	当期利益
前回発表予想(A)	百万円	350,000	19,000	10,000
今回修正予想(B)	百万円	280,000	1,500	1,000
増減額(B) - (A)	百万円	70,000	17,500	9,000
増 減 率	%	20	92	90
(ご参考) 前期実績 平成 13 年 3 月期	百万円	330,426	19,385	7,110

### 3. 業績予想修正の理由等

民間設備投資がIT関連産業を中心に停滞が続いているうえ、米国同時多発テロの影響を受けて、米国景気の後退色が一段と強まり、世界同時不況の懸念が広がるなど、事業環境は厳しさを増すことが予想されます。

こうした状況の下、当社の平成14年3月期の業績見通しにつきましては、これまで順調に推移してきた光海底ケーブルの受注が下期に激減する見通しであるのをはじめ、光コンポーネント、半導体パッケージ材料等も短期間での回復が難しいことが予想されるなど、当初の予想を下回ることが避けられない見通しとなりました。

以上

#### (注記)

前述の業績見通し等に記載されている各数値は、実績数値を除き当社の経営者が現時点で判断する一定の前提および仮定に基づき計算しており、実際の業績等は見通しの数値と異なることがあります。その要因のうち主なものは、次のとおりです。

- ・ 主要市場（特に日本、米国、アジア）における経済状況
- ・ 急激な技術変化（特にエレクトロニクス）
- ・ 新製品・新技術の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社及び子会社の能力
- ・ 製品市場、製品市況の変動（特にエレクトロニクス）
- ・ 為替相場変動
- ・ 資金調達環境
- ・ 製品需給、製品市況及び為替相場等の変動に対する当社及び子会社の能力
- ・ 自社特許の保護及び他社特許の利用の確保
- ・ 製品開発等における他社との提携関係
- ・ 日本の株式相場変動

---

なお、発表後12時間が経過する時点（2001年10月30日午前3時）までに本件発表内容をご覧になられた方は、証券取引法第166条および同法施行令第30条の規定により、インサイダー取引規制に関する会社関係者または第一次情報受領者となりますので、十分ご注意ください。

---